

日本共産党 和歌山市会議員

ひめだ高宏ニュース

NO.1067
15.8.25

9月定例会市議会報告



和歌山市で44年ぶりの国体開催の関係で、一般質問などの異例の9月定例会市議会が8月24日(日)始まりました。25日(火)は、私、ひめだ高宏が日本共産党市議団代表で一般質問補正予算について質問を行いました。本日は、その内容を報告します。

給付対象者の2割が未申告

2014(平成26)年度事業の精算による国への返還金が臨時福祉給付金で2億4888万4千円、子育て世帯臨時特別給付金で9573万7千円計上されています。臨時福祉給付金は約2万人(18.7%)が、子育て世帯臨時特別給付金は約9千人(20.4%)が未申告のために給付金が余ったのです。問題は、対象者が制度をわかっていないかどうかです。周知方法にあと

一工夫(必死だと思えます)し、申請期間(6カ月)が短い。またと思いましたが、
雑賀・三田・野崎・広瀬・吹上・湊・和歌浦・有功東小学校体育館の吊り天井の撤去工事費が1億9450万円計上されています。地震により吊り天井の落下防止を目的として、国の補助金を利用して、15・16の2カ年度で計画していたのに、国が突然、来年度の補助はなくなり、今年度なら追加募集を受けつけるとのこと。2カ月の工事などは、夏休みを中心に計画すべきもので、年度途中の計画変更は、学校行事に影響します。

体育館の吊り天井撤去工事

申請期間(6カ月)が短い。またと思いましたが、

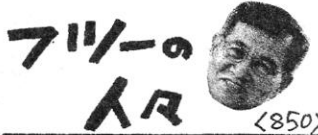
今週のフツの人々

(その13)

いまはもう秋!
8月24日(月)朝の3時に起きて長丁場のワイシャツで新聞配りに行ったら、少し寒かったです。2時間半のコースの終り頃には、とにかく帰って、熱いうどんを食べた。い、それがかりでした。そのうどんのおいしかったこと、食べ終えたままの姿で、しばらく寝てしまいました。
翌25日、ラジオでは台風接近のニュースが流れていました。



ひめだ高宏



フツの人々
台風15号
近畿(和歌山)にも雨も

朝の出勤時
雨は降って降ってばかりで雨が降らない日はない

このままじゃ...
雨の降らない日はない

またか
このままじゃ...
雨の降らない日はない

滝畑の産廃計画地の見学会

8月22日(土)午前中、私、ひめだは、山口地区滝畑の産廃廃棄物最終処分場計画地の現地見学会に参加しました。この見学会は、要求実現和歌山市大運動実行委員会(市大運動)と活気ある住みよい和歌山市をつくる会(市つくる会)が共同して計画したものです。現地では、地元自治会の役員さんが案内してくれま



栗林の計画地。むこう側に水が流れる。

集合場所の標高は120mから計画地の240m付近まで登って行きました。左側は千ヨロ千ヨロと水が流れています。ゴルフ場計画で山が買収されたものの計画は中止、福利厚生のために栗が植えられた場所に今度は産廃処理場計画が。現地を見て産廃で山の谷を埋める計画の不当さを感じ、公民館でスライドによる説明を受け地元自治会の熱心さに感じました。

こんなことは日本共産党です

きまん浮きぼり安倍談話戦後70年にあたるこの「談話」で「侵略」「反省」などの言葉をちりばめるだけで、日本が「侵略戦争や植民地支配」を行ったという歴史認識は

示さず、「反省」や「おれび」も自らの言葉で語ろうとしなかった安倍首相が、参院予算委員会での日本共産党の山下よしき書記局長の質問でも無責任な答弁を繰り返しました。

戦前、朝鮮半島の植民地化を「併合」、中国東北部への侵略拡大を「事変」といってまかした日本の天皇

制政府と軍部は、ついに世界を相手にしたアジア太平洋戦争に突入り、2000万人を超えるアジアの人びとを犠牲にしました。歴史の真実を認めない態度は歴史の誤りを繰り返すことになりかねません。日本を戦争する国にしてはなりません。

潮流

15.8.20 日(旗) 「私の前を歩くな、私が従うとは限らな

い。私の後を歩くな、私が導くとは限らな

い。私と共に歩け、私たちはひとつなのだから」。昔、アメリカ合衆国に土地を奪われた先住民族ソーク族に伝わる格言です。▼当時の部族長は英語名「ブラックホーク」。先日、その名が付けられた米軍ヘリが沖縄のうるま市沖に墜落しました。沖縄県議会は「またしても事故が発生したことは県民を軽視するもの」として抗議決議を全会一致であげました。▼特殊部隊の訓練中だったというヘリには自衛隊員も同乗。防衛省は以前から研修の名目で米軍の訓練に参加し、「見学」していたといっています。今回の事故は自衛隊員が米軍の特殊訓練に日常的に加わっていたことを示しました。▼戦争法案を先取りするような実態。

日本共産党の小池見義員が暴露した自衛隊の内部文書はまさに。日米共同の司令部をつくり、米軍の作戦に組み込まれる。「駆けつけ警護」や武器使用の権限を拡大する。▼「自衛隊が来れば自分たちは殺される」。紛争地で活動するNGO職員が叫びます。自衛隊が米軍と一緒に来れば信頼は失われ、危険性は何十倍にも。自衛隊員とともに自分たちの命も脅かされる危機感です。▼戦後の日本の形を変えてしまおうほどの中身。編集局に寄せられた投書に、そんな内部文書が公になった。首長には別島を覆うほどの声があつた。戦争ノーマットの書かれています。いま、本島の民主主義が住み出さずつつあると。

赤旗 日刊誌 3,497円/月